

運用実績

基準価額

43,838円

前週比

+ 1,184円

純資産総額

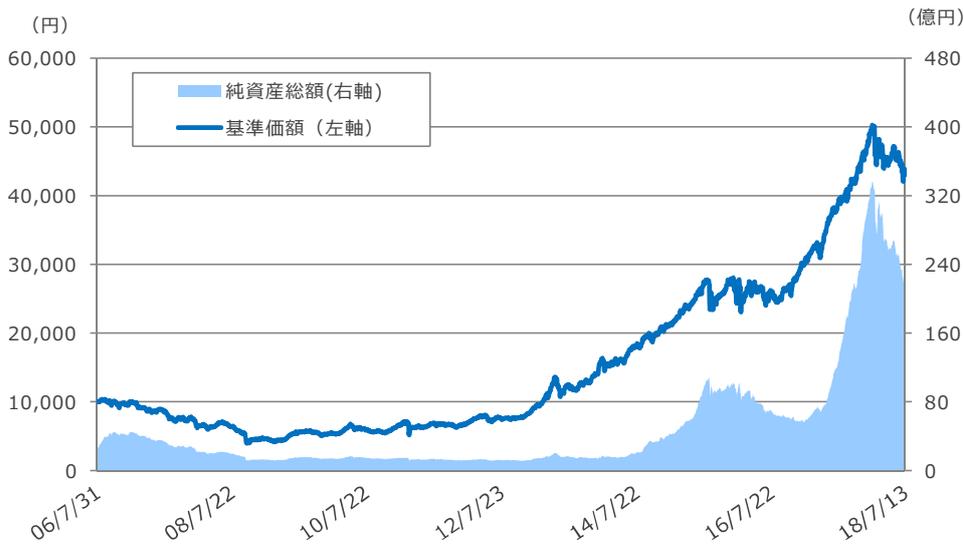
22,527百万円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

※前週比は応答日が祝日等の場合には、前営業日のものとの比較を記載しています。

ファンド設定日：2006年7月31日

基準価額等の推移



※基準価額は信託報酬控除後の値です。

資産構成 (単位：百万円)

本ファンド	金額	比率
マザーファンド	22,460	99.7%
現金等	67	0.3%

マザーファンド	金額	比率
国内株式	89,616	97.6%
現金等	2,176	2.4%

※本ファンドは、中小型割安成長株・マザーファンドを通じて実質的に株式に投資しています。

※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

期間収益率

設定来	1週間	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年
338.4%	2.8%	-5.3%	-2.6%	-11.0%	15.2%	67.9%	253.7%

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものととして算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

※応答日が祝日等の場合には、前営業日からの収益率を記載しています。

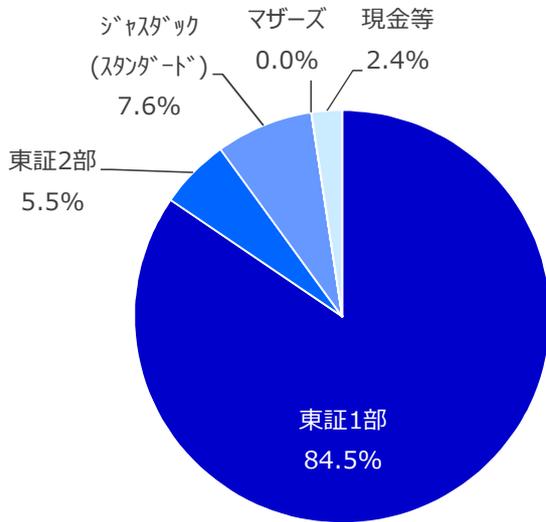
収益分配金 (税引前) 推移

決算期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期	設定来累計
決算日	2013/7/22	2014/7/22	2015/7/22	2016/7/22	2017/7/24	
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	

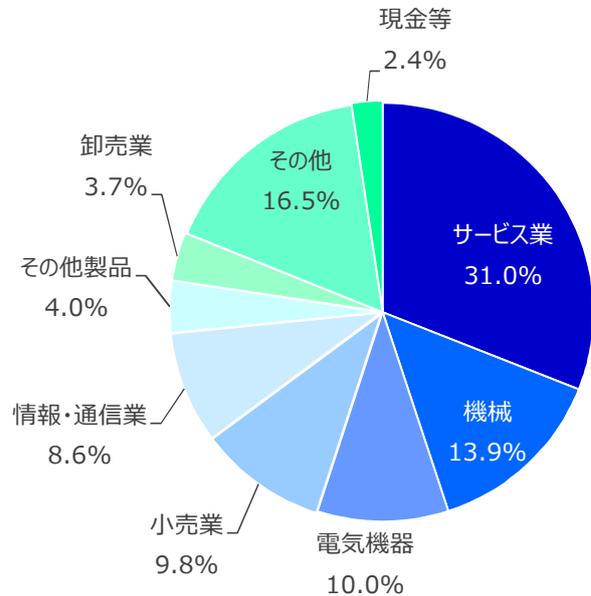
※収益分配金は1口当たりの金額です。

マザーファンドの状況

市場別組入比率



業種別組入比率



組入上位10銘柄

	証券コード	銘柄名	市場区分	業種	比率
1	6465	ホシザキ	東証1部	機械	3.4%
2	9793	ダイセキ	東証1部	サービス業	3.3%
3	3291	飯田グループホールディングス	東証1部	不動産業	3.3%
4	4680	ラウンドワン	東証1部	サービス業	3.3%
5	7943	ニチハ	東証1部	ガラス・土石製品	3.3%
6	2695	くらコーポレーション	東証1部	小売業	3.2%
7	3191	Joyful本田	東証1部	小売業	3.2%
8	7729	東京精密	東証1部	精密機器	3.0%
9	2124	ジェイエイシーリクルートメント	東証1部	サービス業	3.0%
10	4290	プレステージ・インターナショナル	東証1部	サービス業	3.0%

組入銘柄数

59銘柄

※組入比率はいずれもマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
 ※本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行っているため、マザーファンドの運用状況を表示しています。

投資助言会社からのコメント

活動メモ

コンサルティングサービスに対する企業のニーズが多様化しています。コンサルティング事業は19世紀後半の米国で生まれたとされており、日本では企業の海外進出が活発化するに伴って欧米の事業に明るい外資系コンサルティング会社の需要が高まったことから、徐々に浸透しはじめたと言われています。その後、国内系のコンサルティング会社も次々と誕生することになり、企業の経営環境の変化とともにそのニーズは拡大し、「IDC Japan」社の調査によると、2017年の国内市場は前年比+8.2%増の3,921億円、2022年には5,600億円を超える規模まで拡大すると予測されています。

外資系や国内金融系のコンサルティング会社は、総合的なコンサルティングを標榜している会社や戦略領域のコンサルティングを行うような比較的大規模な会社が多い一方、後発となる国内独立系は、中小企業を対象にした会社や、事業再生やM&Aに特化した会社など、特定領域に経営資源を集中することで実績を残している会社も少なくありません。このような会社が存在感を高めてきた背景には、企業経営の複雑化によりコンサルティング会社に求められるサービスが多様化してきたことがあるといえるでしょう。

このような動きは、働き方改革や人手不足、経営のIT化などの経営課題を背景に、近年より加速しているように見受けられます。直近でも、顧客企業のコスト削減のみにフォーカスして、削減額の一部から対価を得る成果報酬型のサービスを提供する企業や、顧客企業内で立ち上がる様々な業務改善プロジェクトに対して、その運営サポートだけに特化する企業なども出現しており、それぞれ上場を控えています。企業を取り巻く外部環境は今後ともめまぐるしく変化していくことが予想されますが、確かなノウハウと創意工夫で顧客が求めるサービスを生み出していける革新的な会社の出現が今後も期待されます。

組入銘柄のご紹介：～リニカル（2183）～

今週は、医薬品の開発に必要な不可欠な治験を担うCRO（開発業務受託機関）として積極的な展開を続けている「リニカル」をご紹介します。同社は2005年6月設立と、業界では後発でしたが、創業メンバーが大手製薬メーカーで免疫抑制剤などの開発に携わっていた知見を活かし、難易度の高い免疫領域から参入しました。さらに2006年に中枢神経領域、2010年にがん領域と専門性を広げ、難易度の高い分野に挑んで実績を積み上げてきました。製薬メーカーによる新規医薬品の開発分野が従来の中心であった生活習慣病から、患者の治療に対する満足度が低い免疫領域、中枢神経領域、がん領域へと力点がシフトする中で、同社に対する需要が高まっています。また人材の育成にも注力しており、開発の進捗をコントロールするCRA（臨床開発モニター）などの専門スタッフは、ほとんどがGCPパスポート（日本臨床試験学会が認定する資格）を取得しています。

さらに、同社が注力してきたのがグローバルな体制の整備です。2008年に米国へ拠点を構えて以降、2013年に台湾、韓国へ進出し、2014年に欧州でM&A（企業の合併・吸収）も実施しました。2018年4月には、米国でさらなるM&Aを実施しており、これによってグローバル全体で904名の体制になりました。

世界の製薬メーカーは、開発費の金額が巨額化している一方で薬価抑制の動きもあることから、効率的な開発を目指して、グローバル治験（国際共同治験）を強化しています。複数の国や地域で同時に治験を行うため、治験期間を短縮することができ、全世界で同時に当局へ申請することも可能になります。同社はグローバルな体制を整えたことで、欧米のメガファーマ（巨大製薬会社）からCRO業務を受託することも可能になります。着実に体制を強化したことを強みに、顧客層を拡大していくことで中長期的な成長を目指しています。

※本ファンドのマザーファンドに助言しているエンジェルジャパン・アセットマネジメントからのコメントです。

※ご紹介する企業はファンドのコンセプトをご理解いただくためのものであり、個別企業の推奨をする目的ではありません。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

本ファンドは、中小型割安成長株・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

ファンドの特色

- 株価が下落した銘柄から財務安定性に優れ、業績も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資します。
- エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社より投資に関する助言を受けて運用します。
- 本ファンドの運用は、ファミリーファンド方式で行い、マザーファンドを通じて実質的に日本の株式に投資を行います。

投資リスク

基準価額の変動要因

本ファンドは、マザーファンドを通じて主に国内株式に投資を行います。株式等値動きのある証券を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に投資する中小型株式等の価格変動は、株式市場全体の平均に比べて大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。

信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

主な変動要因

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して変動します。本ファンドは株式の価格が変動した場合、基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
流動性リスク	株式を売却あるいは取得しようとする際に、十分な流動性の下での取引を行えず、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
信用リスク	投資した企業や取引先等の経営・財務状況が悪化するまたは悪化が予想される場合等により、株式の価格が下落した場合には基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。

その他の留意点

- 本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。

お申込みメモ

購入単位	1口以上1口単位として販売会社が定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の基準価額となります。
購入代金	原則として、購入申込受付日から起算して5営業日目までに販売会社にお支払いください。
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額となります。 換金手数料はかかりません。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いいたします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。 ※受付時間は販売会社によって異なることありますのでご注意ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限（設定日：平成18年7月31日）
繰上償還	受益権の口数が10万口を下回るようになった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年7月22日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 ※税制が改正された場合には、変更となる場合があります。

当資料のご留意点

- 本資料は、SBI アセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。
- 投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。
- 投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。
- お申込みの際には必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

追加型投信／国内／株式

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込金額に3.24%（税抜：3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た金額とします。詳細は販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に0.3%を乗じて得た額とします。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に年1.836%（税抜1.7%）を乗じて得た金額とします。運用管理費用（信託報酬）の配分は下記の通りとします。なお、当該報酬は、毎計算期末を含む毎月22日（22日が休業日のときは翌営業日）または信託終了のときファンドから支払われます。	
	運用管理費用（信託報酬）	年1.836%（税抜：年1.7%）
	内 委託会社	年1.0368%（税抜：年0.96%）
	販売会社	年0.7236%（税抜：年0.67%）
訳 受託会社	年0.0756%（税抜：年0.07%）	
※委託会社の報酬より、投資顧問（助言）会社への報酬が支払われます。		
その他費用 及び手数料	ファンドの監査費用、有価証券売買時にかかる売買委託手数料、信託事務の処理等に要する諸費用等が信託財産から差引かれます。これらの費用は、監査費用を除き運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。	

投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社、その他関係法人

委託会社	SBI アセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。）
販売会社	※最終頁をご参照ください。（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。）

追加型投信／国内／株式

販売会社一覧

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第44号	○	○		○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商) 第20号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第35号	○			
三田証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第175号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第105号	○			○
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第61号	○	○		
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第131号	○	○		
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第140号	○	○		○

■ 販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。

ファンドのご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。